MAKING THE IMAGE INTELLIGENT

DIGITAL MEDIA PROFESSIONALS

2027年3月期　第2四半期

決算説明会

株式会社ディジタルメディアプロフェッショナル

2026年11月12日

本資料に記載された意見や予測などは資料作成時点での当社の判断であり、その情報の正確性を保証するものではありません。
様々な要因の変化により実際の業績や結果とは大きく異なる可能性があることをご承知おきください。

1 2027年3月期 第2四半期 決算説明

2 2027年3月期 通期業績予想

3 成長戦略・ビジョン

Copyright (C) Digital Media Professionals Inc. All Rights Reserved.

1 2027年3月期 第2四半期 決算説明

2 2027年3月期 通期業績予想

3 成長戦略・ビジョン

Copyright (C) Digital Media Professionals Inc. All Rights Reserved.

会社概要

世界有数のグラフィックスIPベンダーとしての創業以来の経験・知見を活かし、近年は**アルゴリズム・ソフトウエアからハードウエア**、並びに**エッジからクラウド**に亘る一貫したAIサービスの提供により、お客様や社会の課題解決に貢献しています

会社名	株式会社ディジタルメディアプロフェッショナル（DMP）
設立	2002年7月 （2011年6月東証マザーズ上場, 2022年4月東証グロース移行）
所在地	東京都中野区
代表者	代表取締役会長兼社長CEO 山本 達夫
資本金	1,838百万円
従業員数	50名（2026年4月1日現在）
特許数	36件

IPコアライセンス事業



・AI/GPU IPコアライセンス
・AIソフトウエアライセンス

製品事業

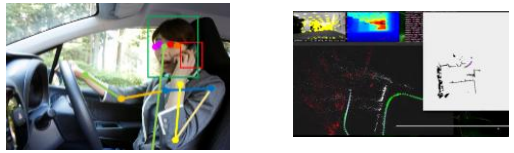


・アミューズメント市場向け画像処理半導体
・エッジAI半導体
・協働ロボット向けビジョンシステム
・FA製品（AMR本体/コンポーネント）
・モジュール



プロフェッショナルサービス事業

・AIアルゴリズム、コンピュータビジョンソフトウエア受託開発
・FPGA/ボード受託開発
・ロボティクス・セーフティに係る顧客製品・サービス開発サポート



Copyright (C) Digital Media Professionals Inc. All Rights Reserved.

2027年3月期 第2四半期 - 業績ハイライト

- 成長分野への経営資源の集中を継続し、Physical AIの社会実装に向けた基盤づくりを推進
- 鉄道・物流向け受託開発やFA製品の拡大により、ロボティクス・セーフティ分野が確実に成長（YoY +35%）
- アミューズメント分野は「RS1」の量産出荷を継続、保通協等の検定試験適合率の改善の動きは弱い

全社

売上高

899百万円

（YoY △0.4%）

経常利益

△207百万円

（前年同期 △292百万円 ）

事業別売上高

IPコアライセンス

43百万円

（YoY △22%）

製品

773百万円

（YoY △7%）

プロフェッショナルサービス

81百万円

（YoY +319%）

分野別売上高

ロボティクス・セーフティ

159百万円

（YoY +35%）

アミューズメント

702百万円

（YoY △5%）

その他

36百万円

（YoY △16%）

※ YoY (Year on Year)：前年同期の連結ベース決算数値との比較

Copyright (C) Digital Media Professionals Inc. All Rights Reserved.

2027年3月期 第2四半期決算ハイライト - 損益計算書

売上高は前年並みを確保、損失は前年同期から縮小

(単位：百万円)	2026年3月期 中間期	2027年3月期 中間期	増減額
売上高	902	**899**	**△3**
営業利益	△299	**△209**	**+90**
経常利益	△292	**△207**	**+85**
中間純利益	△313	**△208**	**+105**

- 売上高は、前年同期比0.4%減と ほぼ前年並み
- IPコアライセンス事業、製品事業で減収となったが、プロフェッショナルサービス事業が受託開発案件の積み上がりにより伸長
- 「Di1」開発の一巡等により営業損失は前年同期から90百万円縮小。次世代製品の開発・人材獲得に向けた戦略的投資は継続

※ 2026年3月期中間期の数値は連結決算数値(「中間純利益」は「親会社株主に帰属する中間純利益」のこと)

Copyright (C) Digital Media Professionals Inc. All Rights Reserved.

2027年3月期 第2四半期決算ハイライト - 事業／分野別売上高

●事業別売上高

IPコアライセンス事業 **43百万円** 前年同期 55百万円

- 主にデジタルカメラ・プリンター等のデジタル機器向けAI/GPUランニングロイヤリティ、ロボティクス・セーフティ分野におけるリカーリング収益、メンテナンスサポート収入等を計上

製品事業 **773百万円** 前年同期 827百万円

- RS1の量産出荷、Cambrianビジョンシステム、FA製品、「Di1」開発キット等の売上を計上

ﾌﾟﾛﾌｪｯｼｮﾅﾙｻｰﾋﾞｽ事業 **81百万円** 前年同期 19百万円

- 半導体製造装置向け、安全用途向け、物流機器向け等の受託開発に加え、Cambrianビジョンシステムの学習支援等の売上を計上

●分野別売上高

ロボティクス・セーフティ分野 **159百万円** 前年同期 118百万円
売上構成比(前年同期比) 17.7% (+4.6pt)

- 受託開発サービス、FA製品・Cambrianビジョンシステム・「Di1」開発キット等の製品売上、リカーリング収益等の売上を計上

アミューズメント分野 **702百万円** 前年同期 740百万円
売上構成比(前年同期比) 78.2% (△3.9pt)

- 主にRS1の量産出荷売上を計上

その他分野 **36百万円** 前年同期 43百万円
売上構成比(前年同期比) 4.1% (△0.8pt)

- デジタル機器向けAI/GPU IPランニングロイヤリティ、メンテナンスサポート収入等を計上

※前年同期の売上金額は連結ベース決算数値

Copyright (C) Digital Media Professionals Inc. All Rights Reserved.

自己資本比率は90.6%と高水準を維持

～戦略的投資を可能にする強固な財務体質～

（単位：百万円）	2026年3月末	2026年9月末	増減額	主な増減要因
流動資産	2,790	2,219	△571	現金及び預金 △606　原材料及び貯蔵品△79 売掛金及び契約資産 △12　有価証券 +188
固定資産	1,041	1,155	+114	有形固定資産(工具器具備品) +49 投資有価証券 +31
資産合計	**3,831**	**3,374**	**△456**	
流動負債	537	289	△248	買掛金 △291
固定負債	27	27	△0	
負債合計	564	316	△248	
純資産合計	**3,266**	**3,058**	**△208**	利益剰余金 △208
負債・純資産合計	**3,831**	**3,374**	**△456**	

Copyright (C) Digital Media Professionals Inc. All Rights Reserved.

1 2027年3月期 第2四半期 決算説明

2 **2027年3月期 通期業績予想**

3 成長戦略・ビジョン

Copyright (C) Digital Media Professionals Inc. All Rights Reserved.

2027年3月期 通期業績予想

5月15日公表の通期業績予想に変更なし
～2027年3月期は将来の成長に向けた攻めの戦略的投資を実行～

（単位：百万円）	2026年3月期 通期実績	2027年3月期	
		通期予想	増減
売上高	2,432	**3,640**	+1,207(+49.6%)
営業利益	△311	**30**	+341
経常利益	△293	**45**	+338
当期純利益	△327	**30**	+357

- エッジAI半導体「Di1」事業の立ち上がりや、アミューズメント分野の周辺ビジネスの取り込み等により業績は下期に偏重の見込
- 安定収益基盤であるアミューズメント分野での着実な収益の確保を図るとともに、成長領域であるエッジAI半導体事業およびロボティクス・セーフティ分野の拡大に取り組む。エッジAI半導体 Di1の量産案件の積み上げおよび製品ミックスの改善による収益・利益の改善に取り組むと同時に、中長期的成長に向けた研究開発や必要人材の積極採用を含む戦略的投資を引き続き推進

Copyright (C) Digital Media Professionals Inc. All Rights Reserved.

1 2027年3月期 第2四半期 決算説明

2 2027年3月期 通期業績予想

3 **成長戦略・ビジョン**

Copyright (C) Digital Media Professionals Inc. All Rights Reserved.

2027年3月期 第2四半期のトピック

3つの重点領域すべてで、エッジAIの社会実装が前進

01 社会課題の解決

JR東海
東海道新幹線ホームでDi1搭載AIカメラによる安全確認支援を検証

西尾レントオール
グラングリーン大阪で実運用。迷惑行為の検知精度が41.8%→83.5%に向上

02 Physical AIの実装

TRIC開所（7月）
東京ロボティクス・イノベーションセンターが実装拠点として稼働

エコシステム拡大
国内外パートナーとDi1搭載SOMを展開。AMR評価用キットを近日発売

03 Dual Useへの展開

ideaForgeと協業
Dual Useドローン世界3位の同社とDi1で協業。世界と日本の双方向で展開

セミナー開催（10月・期後）
インド企業トップが登壇し、Di1搭載製品の開発進捗を発信

中期ビジョン 2030/3期 売上高80億円へ

Copyright (C) Digital Media Professionals Inc. All Rights Reserved.

Di1 事業進捗

製品開発中の6社のうち5社が海外。エコシステム・パートナーは30社に拡大

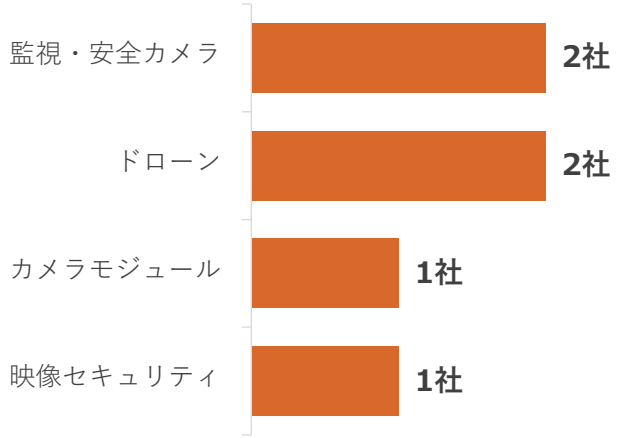
顧客製品開発進行中
6 社※
初回量産：2027年1-3月

分野
4 分野
カメラ・ドローン等

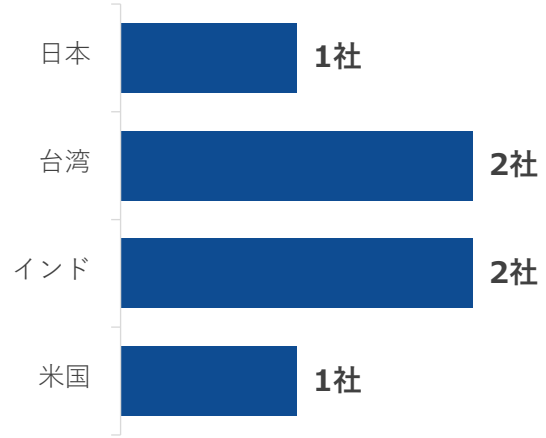
地域
4 か国・地域
海外比率 83%

エコシステム・パートナー
30 社
部品から販売まで4レイヤー

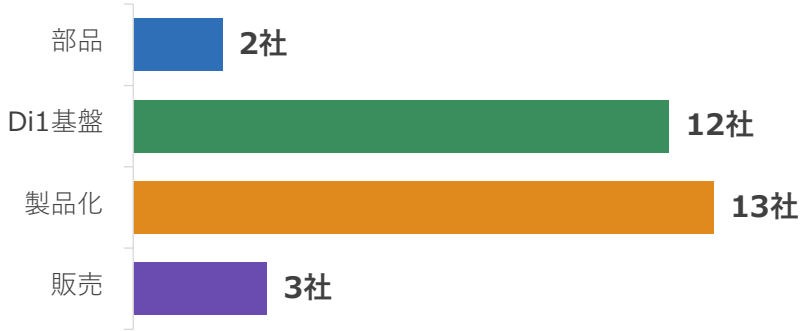
顧客：分野別（社）



顧客：地域別（社）



エコシステム：レイヤー別（社）



部品：センサー・光学系
Di1基盤：画質調整・ミドルウェア・AIアプリ・SI
製品化：基板・モジュール・製品の開発／製造
販売：代理店・商社

※ 台湾iCatch Technology社が販売するV9（Di1等価製品）を含む

Copyright (C) Digital Media Professionals Inc. All Rights Reserved.

JR東海：東海道新幹線ホームの安全性向上の検証

Di1搭載AIカメラを提供 ― 鉄道インフラへのエッジAI実装の第一歩



DMPの役割・技術

- Di1搭載AIカメラを開発し提供
- ソフトウェアとAIモデルを開発し提供

Di1の高い処理能力とシステム小型化により、
設置コストの大幅削減を実現



AIカメラ　　コントローラ

（設置駅）　新大阪　京都　三河安城　新横浜　東京

検証の内容

- ホーム上の乗降口付近にDi1搭載AIカメラを設置し、
  動画から人物の位置データを抽出
- 乗客が可動柵と列車の間に取り残されていないかを検知

今後の展開

- AIカメラによる安全確認支援技術をさらに高度化
- 鉄道各社をはじめとする社会インフラへの
  エッジAI実装を推進

Copyright (C) Digital Media Professionals Inc. All Rights Reserved.

西尾レントオールとの協業：LLM異常行動検知の実証

グラングリーン大阪で実運用 ― LLM×ビジョンAIで迷惑行為の検知精度を2倍に向上



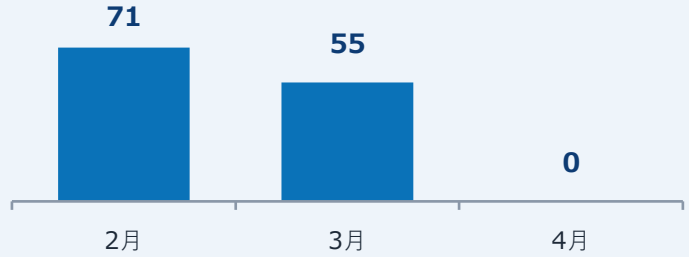
認識精度

41.8% →

83.5%

約2倍に向上

スケートボード滑走の検知件数(件/月)
抑止効果により大幅減少



実証の概要

場所	グラングリーン大阪の一部エリア
期間	2026年1月 ～ 継続実施中
テーマ	スケートボード滑走の検知・抑止
役割	西尾レントオール：実証主体・現地運用 DMP：検知システムの開発・チューニング

Vision-LLM Insight の強み

- ✓ LLM×ビジョンAIで行動の意味・文脈を解釈
- ✓ 実運用データで反復チューニング
- ✓ 既設IPカメラをそのまま活用、大きな設備投資が不要

今後の展開

侵入・放置・不審な徘徊・転倒などへシナリオを拡大し、

自治体・施設・建設・物流現場への社会実装を加速

Copyright (C) Digital Media Professionals Inc. All Rights Reserved.

Physical AIに求められるのは「その場で見て、理解する」力

クラウドではなくエッジで ― 認識をデバイス上で完結させる

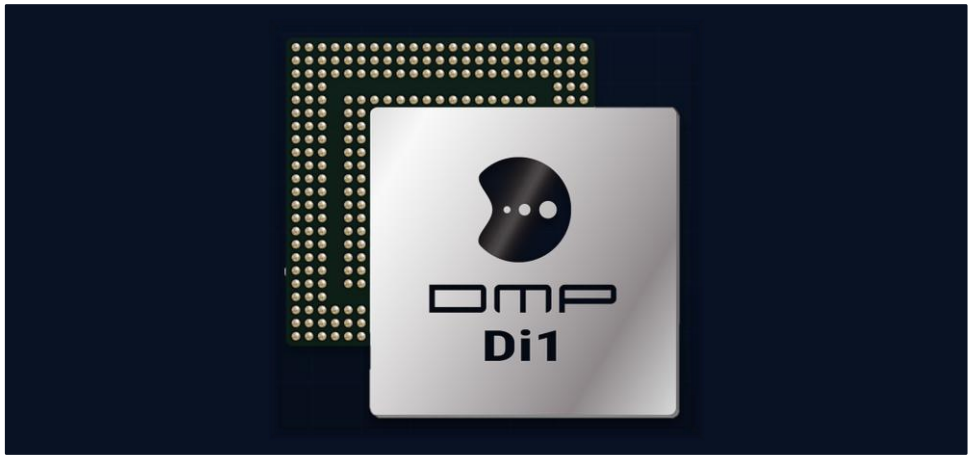
現実世界で「認識 → 理解 → 判断 → 行動」のループを回す



Physical AIとは、現実世界で認識し、理解し、判断し、行動する機械のこと。
処理はデバイス上でミリ秒単位で完結させる必要がある ― **だからこそエッジが鍵となる。**

Copyright (C) Digital Media Professionals Inc. All Rights Reserved.

DMPの答え：Physical AIのためのエッジAI半導体「Di1」



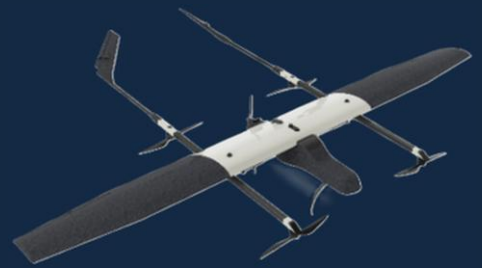
DMP Di1

- 世界初※のFP4対応エッジNPUで高効率を実現
- 4チャンネル・ステレオビジョンで高精度な3D認識
- 低消費電力・低発熱・低システムコストを追求した設計

※2025年時点、DMP調べ



セキュリティ・監視



ドローン



AMR・ロボティクス



モビリティ

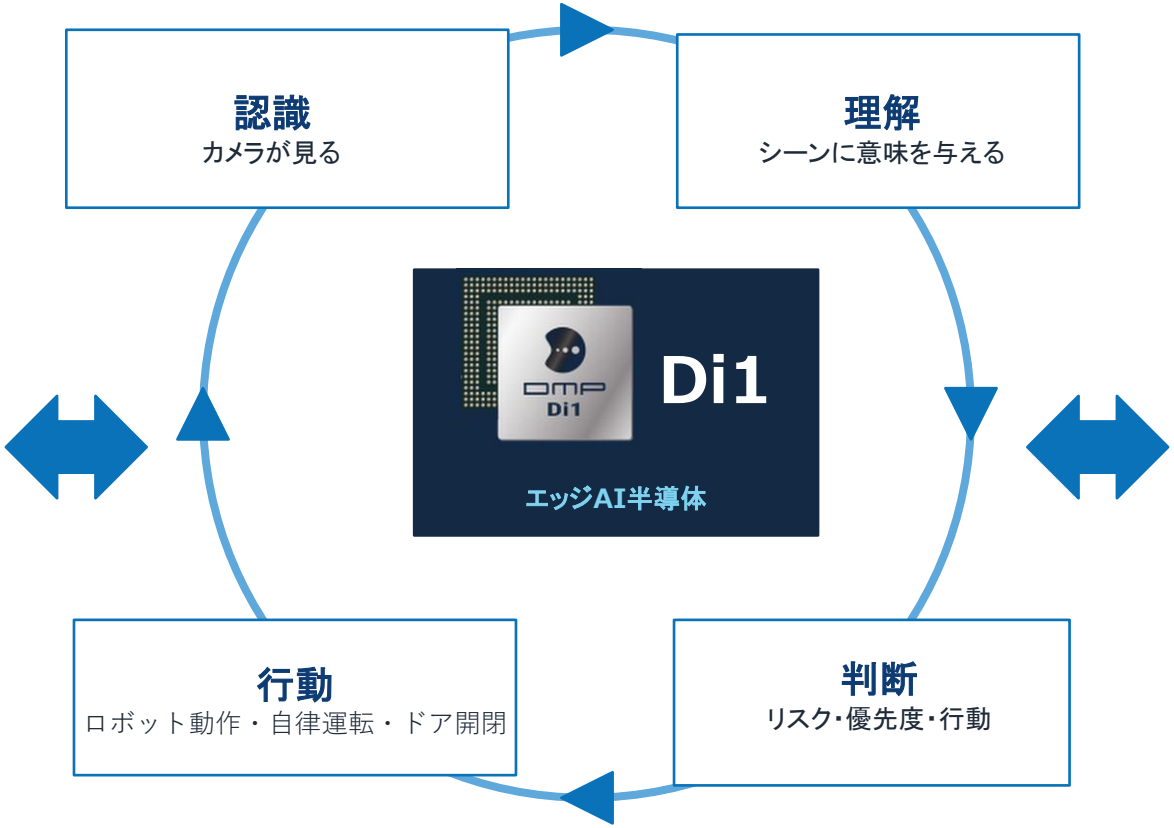
Copyright (C) Digital Media Professionals Inc. All Rights Reserved.

目・頭脳・身体 — そしてそれらをつなぐループ



固定の「目」

固定AIカメラ
工場・倉庫
都市・ビル・小売





動く「目」

ドローン・AMR・ロボット
点検・物流
警備・モビリティ

Copyright (C) Digital Media Professionals Inc. All Rights Reserved.

エッジAI半導体「Di1」:エコシステム構築のフェーズへ

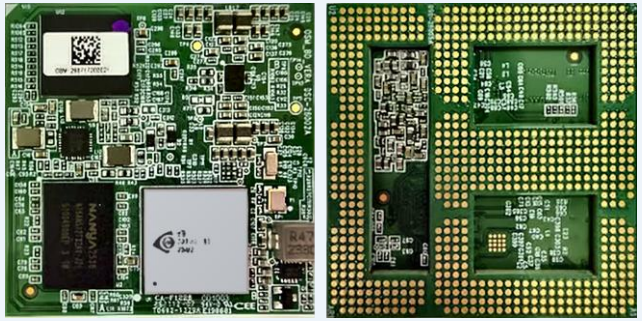
国内外パートナーとの実装・検証を通じて、Di1搭載製品の製品化を加速



DMP

開発キットSOM

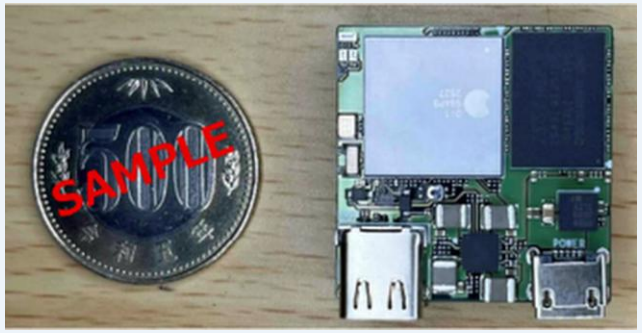
開発期間の短縮に貢献



iCatch Technology

OSM Size-L準拠SOM

BGAにより基板に直接実装が可能



T2 Laboratory

コインサイズSOM

超小型モジュールなど先端SOM設計サービスを提供

※SOM(System on Module):プロセッサ・メモリなどを1枚に搭載し、機器にそのまま組み込める小型モジュール

Copyright (C) Digital Media Professionals Inc. All Rights Reserved.

東京ロボティクス・イノベーションセンター オープン

OPENING CEREMONY

2026.7.24

メディア12社を招いて
開所式を開催

**Physical AI実装拠点として
稼働を開始**

TOKYO ROBOTICS
Innovation Center
東京ロボティクス・イノベーションセンター

デモエリア



エントランス



展示エリア

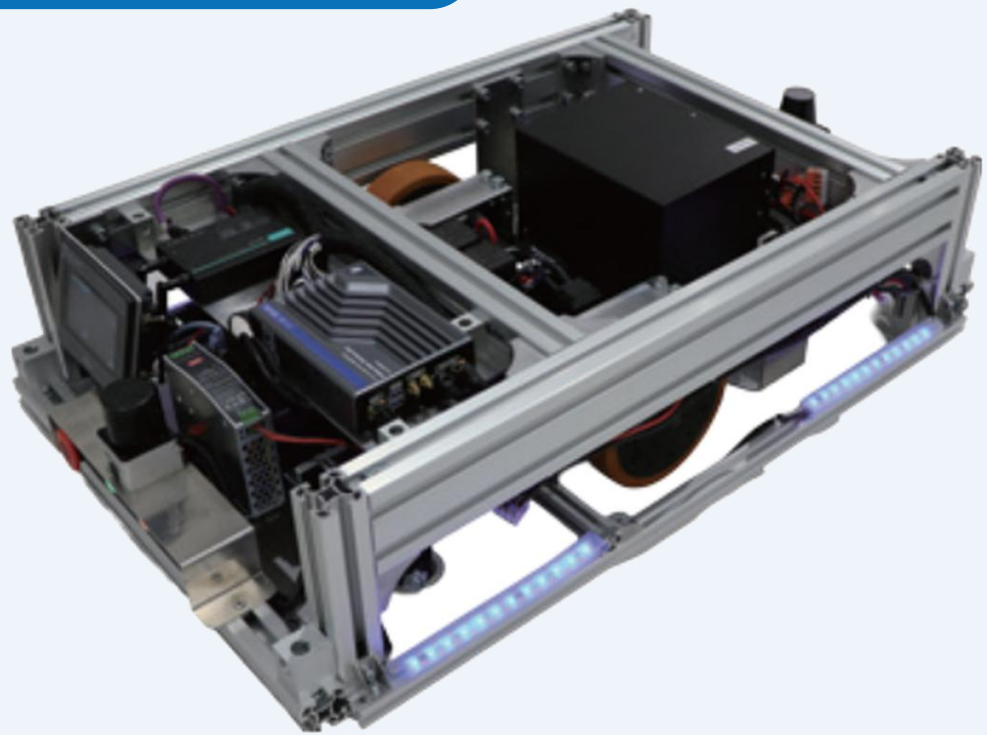


Copyright (C) Digital Media Professionals Inc. All Rights Reserved.

DMP RX-D400

AMR開発を強力に支援する評価用キット

2026年11月発売予定



01 オールインワンコンポーネント

02 高精度なSLAM性能

03 高い拡張性と柔軟性

04 豊富な周辺機器とオプション

05 強力な開発支援

06 優れたコストパフォーマンス

Copyright (C) Digital Media Professionals Inc. All Rights Reserved.

DMP、Dual Use市場へ参入

Dual Useドローン世界3位のideaForgeと双方向で協業 ― Di1は世界へ、ideaForge機体は日本へ



採用



ideaForge インド上場のドローン企業

世界3位	95万回超
Dual Useドローン※1	累計ミッション※2

展開

Dual Use展開

GLOBAL MARKET

ideaForgeの販路で
各国のDual Use市場へ

JAPAN MARKET

ideaForge機体を
DMP販路で国内市場へ※3

点検・災害・警備／防衛

※1 2024年12月時点、DIIの調査による（ideaForge社資料より）
※2 2025年12月時点（同）

※3 国内への機体導入は計画段階であり、時期・内容は未定です

Copyright (C) Digital Media Professionals Inc. All Rights Reserved.

10月21日 Physical AIセミナー(ベルサール羽田空港)

インドのドローン・監視カメラ企業トップが登壇 ― Di1搭載製品の開発順調、協業への前向きな評価



Physical AI ― from Proven to Intelligent ―

> ***Indian innovation meets Japanese intelligence***
> インドのイノベーション × 日本のインテリジェンス ― Sparsh

当日の会場の様子



Copyright (C) Digital Media Professionals Inc. All Rights Reserved.

中期ビジョン(三位一体の成長戦略)

Physical AI時代の「Edge Intelligence Platform Company」へと進化

成長分野への展開 エッジAI半導体事業

コア事業で培った強み・ノウハウを活かし、新たな分野で半導体ビジネスを展開。
モビリティ・スマートファクトリー・ドローン・スマートカメラなどの高成長市場で採用拡大

新規事業機会の獲得 FA事業

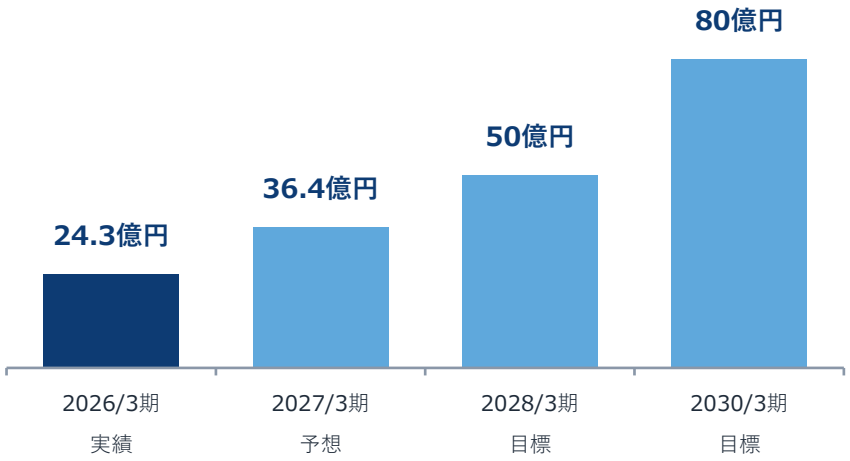
Cambrian Vision Systemで築いた業界ネットワークを活かし、
ロボティクス・FA・物流自動化のスマート化により、日本の社会課題解決に貢献

コア事業のさらなる成長 アミューズメント事業

周辺ビジネスの取り込みによる付加価値の増大と、
コスト低減などによる利益の強化

中長期的な企業価値向上

売上高の推移と目標



※2029/3期は表示を省略。予想・目標は現時点の計画に基づきます

Copyright (C) Digital Media Professionals Inc. All Rights Reserved.

＜お問い合わせ先＞

株式会社ディジタルメディアプロフェッショナル 管理統括本部

TEL:03-6454-0450

URL: https://www.dmprof.com/jp/ir/

- 本資料に含まれる将来の見通しに関する記述は、現時点における情報に基づき判断したものであり、マクロ環境や当社の関連する業界動向等により変動することがあります。従いまして、実際の業績等が、本資料に記載されている将来の見通しに関する記述と異なるリスクや不確実性がありますことをご了承ください。
- 本資料は、弊社をご理解いただくための情報提供を目的としたものであり、弊社が発行する有価証券への投資を勧誘するものではありません。本資料に全面的に依拠した投資等の判断は差し控え願います。

Copyright (C) Digital Media Professionals Inc. All Rights Reserved.